



国際親善ニュース

第 5 号

昭和54年2月15日発行
金沢市都市提携委員会
事務局：金沢市総務部総務課
国際親善係 TEL 20-2075

多彩な友好交流

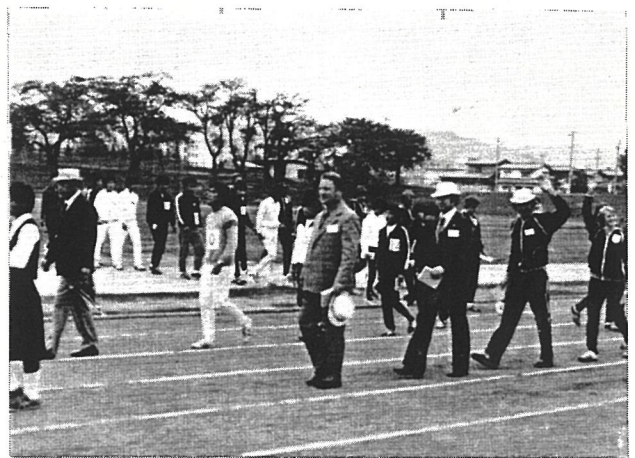


○ロウ弦楽四重奏団来訪 = 写真左

岡前市長の招請で、州立バファロ大学のロウ弦楽四重奏団は、市民文化祭のメイン行事の一つ「ロウ弦楽四重奏団コンサート」に演奏するため10月28日来日した。チェロのルーカ・ティチェッコ氏をリーダーとする4人のメンバーは、それぞれバファロ大学の準教授という名誉ある職に加えて、世界一流の音楽家という風格を備えながらも、フランクで親しみやすいパーソナリティに大いに好感が持たれた。同四重奏団は、11月1日に中・高校生を対象とする鑑賞教室で演奏家というより音楽教授として楽器上達の方法などについて解説を交え、ポピュラーなハイドンの「ひばり」、ドボルザークの「アメリカ」などを演奏した。翌2日は、約850人の一般聴衆を前にベートーヴェンの「ハーブ」やヒナステラの作品20などを演奏した。一行は、このほかテレビ出演、金沢大学の学生に対する音楽の指導、2日にわたる民泊等のプログラムを通じ市民各層との親善交流を大いに深め11月7日帰国した。(写真は、観光会館での演奏会)

○イルワーツク市親善陸上競技代表団来訪 = 写真右

9月23日、市営陸上競技場において金沢市・イルワーツク市姉妹都市親善陸上競技大会がイルワーツク市副市長A・ゲエフスキー団長、トレーナー2人、男子選手6人、女子選手5人の総勢14人を迎えて開かれた。百メートルなど男子8種目、女子6種目とも、ロシア共和国記録保持者を擁すイルワーツク市が圧倒的強さを見せたが、大会最後に松本彰選手が4百メートルリレーのアンカーをつとめて貴重な1勝を金沢市にもたらし、一矢をむいた。総合成績では、イルワーツク市84点、金沢市58点となり、江川市長職務代理者(当時)からゲエフスキー団長へ総合優勝トロフィーが、又、ゲエフスキー団長から金沢市チーム団長の土用下和宏市陸上競技協会会長へ記念のカップが贈られ、両市の友情の深さを確認し合い、スポーツを通して相互理解を深めた。大会終了後、両市選手団は、市民歓迎パーティに臨み、互いの健闘を誉めたたえ合うなど楽しい交歓のひとときを過ごした。(写真は、行進する両市選手団)



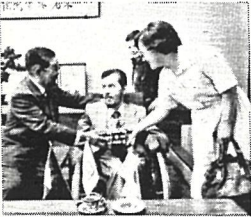
○第4回金沢姉妹都市フェアが開催 = 写真左

毎年の恒例行事となった「金沢姉妹都市フェア」は、今回で4回目を迎え10月6日から11日までの6日間、金沢名鉄丸越テパート8階ホールで開かれ、会期中、延べ約3万5千人が訪れた。今回のテーマは「姉妹都市のおまつり」で、6日の開会式には特別ゲストとしてスミルノフ駐日ソ連大使館一等書記官、ホルシエンコソ連観光局日本支局長、そしてバファロ市から留学中のリンダさんら留学生6人も招かれ、江川市長職務代理者(当時)、油谷本会名誉会長等によってテープカットが行われた。フェア開場には、岐阜のコロムビア文化服装専門学校提供の世界の民族衣裳、各姉妹都市からの記念交換品、過去1年間の交流写真多数が展示された。又、姉妹都市別に記念バザールも開かれ、その国の代表的な特産品、民芸品が即売され人気を博した。このほか、会場2ヶ所でビデオ・プロジェクトにより各国の有名なおまつりが常時映し出され、訪れる観客も熱心に見入っていた。(写真は、挨拶する江川市長職務代理者)



各姉妹都市と積極的な交流

○フランス身障者社会参入協会々長が来訪



フランス身障者社会参入協会々長クロムバス夫妻ら一行4人が5月19日に来沢した。クロムバス氏は、姉妹都市ナンシー市に住み、ナンシー大学卒の数学博士で大学教授の資格を持っている。東京で開かれた国際交通シンポジウムに講演者として来日した機会に金沢へ立ち寄ったもので、同氏自身、車いすに頼る重度身障者のため、本市滞在中、身障者用バス「ことじ号」が提供された。市長表敬の際、「フランスでの身障者の社会的地位向上運動は、ナンシー市を中心に盛り上がり、特に大学へ通う身障者のためのバスが定期運行するまでになった。身障者も健康な人と同じ扱いをもらうための活動をしている。」と語り、岡市長（当時）も「本市では、特に社会福祉に力を入れており、身障者も国民として当然の人権を持つよう配慮している。」と答えた。一行は、兼六園など市内見学したが、尾山神社で和式結婚式を見る機会にも恵まれ、大喜びで21日に離沢した。（写真は、市長と握手するクロムバス氏）

○提携委員会々長がポルトアレグレ訪問



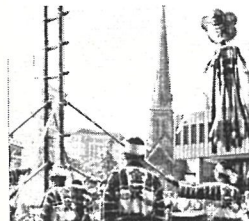
中村外次本会々長（市議会議長）と喜多美由喜市議会議員が8月14日から15日までブラジルの姉妹都市ポルトアレグレ市を訪問した。14日、市庁舎にヒレーラ市長を表敬訪問した一行は、置時計をプレゼントし両市の親善交流についてなごやかに歓談した。その後、議会を訪問したが、丁度議会開催中で全議員から盛大な拍手で迎えられ、大きな花束が贈られるなど大変温かい歓迎を受けた。ポルトアレグレは8月が冬にあたり、日中気温4度Cの寒さに震えながらも、市長夫人、藤田在ポルトアレグレ日本総領事夫人の親切な市内観光案内を受け各所を視察した。途中、市長夫人自らが担当して造った生活保護世帯の住宅施設を見学した時、保育所の大勢の子供達から歌をうたうたっての大歓迎を受けた。その晩、市長主催歓迎夕食会が開かれ、ガウショの踊りが披露され、名物料理シユラスコ（大きな牛肉の串焼）をごちそうされるなどの温かい歓迎を受け、15日に当地を離れた。（写真は、ヒレーラ市長と歓談する両氏）

○モダン・バレエ団がイルクーツク訪問



姉妹都市イルクーツク市（ノ連）の招請で、金沢市親善使節団が8月18日から23日まで同市を訪問した。同使節団は、高倉健次市総務部長を団長とし、市役所代表団と中村モダン・バレエ団の一行25人で構成され、18日にイルクーツク空港に到着した。一行は、サラツキー市長をはじめ子供達の熱烈な出迎えを受けた。滞在中、バイカル湖保養所、ピオネールキャンプ場（少年開拓団のキャンプ場）等の施設を見学し雄大なシベリアの自然を満喫した。バレエ団の公演は3回行われたが、22日の最終公演では6百人収容のミュージカル・コメディ劇場が超満員の観衆で埋まった。6才から20才までのバレエリーナー達は、旅の疲れにもかかわらずその見事な演技を披露し、観衆の温かい拍手はいつまでも鳴り止まなかった。一行は、バレエ公演を通してイルクーツク・金沢両市間の友好を深め23日に同市を離れた。（写真は、サラツキー市長と握手する高倉団長）

○市義勇消防団有志がバファロ訪問



油谷本会名誉会長を団長とする金沢市の義勇消防団有志とその家族から成るバファロ親善訪問団一行24人は、5月25日にハワイ・ホノルル市で開かれた石川県観光物産展のオープニング行事に参加したあと、31日にバファロに到着した。翌6月1日の午前中、グリフィン市長を表敬訪問し両市の交流について懇談した。正午頃から市内のメインストリートのMアンドT銀行前の広場で数百人の観衆を前に、金沢の長い歴史と伝統を誇る加賀とびのはしご登りの演技のガズガズを披露した。はしご登りのスリリングな演技は、アメリカ人には見たこともない珍しいものだけに観衆は興奮し、どよめきの声をあげ、拍手がつかさいで賞賛した。演技終了後、バファロ市消防関係者と楽しく懇談し、演技の話しに花が咲いた。なお、はしご登りで使用したまとい、はしご、とび口などをすべてバファロへ寄贈し2日に同市を離れた。（写真は、演技中の消防団有志）

○гент民族舞踊団が来訪



市レクリエーション協会（会長・喜多美由喜氏）の招きで、姉妹都市гент市から民族舞踊団29人（団長・テジヨンゲ氏）が7月23日から8月1日まで本市を訪れた。フランダース地方のカラフルな民族衣装を着た一行は、24日に市役所を訪問し、江川市長職務代理者（当時）と記念品を交換した。30日に市観光会館で地元の兼六民謡会と合同公演を行い、フランダース地方の民謡に合わせて楽しそうな数々の踊りを披露し、多数の観客を魅了した。30日から来沢しているгент日本武道学校の一行も観覧し、盛んな拍手を送っていた。一行は、滞在中、市内の家庭に民泊し、初めて体験する日本の生活様式に戸惑いながらも家族と打ち解け市民交流を深めた。

そのほか、兼六園等の市内観光、又、七尾、氷見、津幡でも公演し各地で大変な人気を博し、氷見では海水浴を楽しむなど大いに友好を深め8月1日に離沢した。（写真は、観光会館での合同公演）

○гент日本武道学校一行が来訪



姉妹都市гент市からテスメット校長を団長とするгент日本武道学校一行30人が7月30日から8月3日まで本市に滞在中。一行は、3年前にも金沢を訪れており、その時の思い出が忘れられず再訪問となった。一行は、電気技師、会社員、建築家、学生等さまざまな職業の人達で、剣道2段1人、初段1人、合気道初段2人、3級1人が含まれており、8月2日に県立体育館で親善交戦試合が行われ、市剣道連盟等のメンバーと対戦し、好試合を演じ観客から盛んな拍手を浴びた。結果は敗れたものの、大いにスポーツ交流を深めた。滞在中、市内の一般家庭に民泊し市民交流を深めたが、3年前と同じ家庭に泊った人もあり、再会を喜び合っていた。又、兼六園、ベルギー庭園等の市内観光、白尾海岸での海水浴をも楽しんだ。又、鳴和に建設中の武道館を見学し、その設備に目を見はつていた。3年後に再び来訪し武道館で試合することを誓って8月3日に離沢した。（写真は、県立体育館での交戦試合）

○岡前市長が姉妹都市歴訪



岡市長（当時）は、6月26日から7月16日までイルクーツを除く各姉妹都市を歴訪した。乙村市総務課長が随行したが、一行は6月27日から30日まで最初の訪問地バファロを訪れた。滞在中、グリフィン市長、ティーボールド姉妹都市委員会々長等と両市間の交流について話し合い親善を深め、ナイアガラ瀑布等の観光案内、歓迎レセプション等の温かい歓待を受けた。7月2日、ブラジルの姉妹都市ポルトアレグレを訪問し、ピレーラ市長をはじめ関係者と会い友好の輪を広げた。鯉のぼりを記念品として贈呈したところ、盛大な式典が催されるなど丁寧な歓迎ぶりであった。7日にフランスの姉妹都市ナンシーに到着、ブルーゼ助役をはじめ関係者多数の出迎えを受けた。滞在中、クウレ市長とも懇談し友好の発展を約束し合った。温かい歓待を受けた一行は、9日にはベルギーの姉妹都市ゲントを訪れ、ペープ市長、モリーウ助役等との話し合いを通して両市間の友好を確認し合った。滞在中、中世のギルド・ハウス等の市内観光、歓迎レセプション等の心温まる歓待を受け、11日にゲントを離れベルン等を経由して帰国した。

（写真は、バファロ市長に特別名誉市民証を贈る岡前市長）

○徳田元市長がナンシー訪問



徳田与吉郎元市長（金沢日仏協会々長）が10月29日から31日まで姉妹都市ナンシー市を訪問した。徳田氏は、市長当時の7年前にも両市提携のために訪れたことがあるが、今回の訪問は、エール・フランスの大阪－パリ間就航記念に招待されたもので、フランスに姉妹都市を持つ全国13市から8人が参加した。一行は、27日にパリに到着し、その晩行われたフランス上院・通産省主催レセプションにおいて徳田氏が「姉妹都市間の交流活動を通して仏日両国の友好・親善の発展を願う。」と挨拶をするなどして、両国の友好をも深めた。徳田氏は一行と別れて29日にナンシーを訪問したが、駅頭にはブルーゼ助役をはじめナンシー日仏協会関係者多数が出迎えた。市庁舎にクウレ市長を表敬訪問し、関係者となごやかに歓談した。滞在中、スタニスラス広場等の市内観光、又、歓迎レセプションが開かれるなどの歓待を受けた。

（写真は、クウレ市長＝左端の歓待を受ける徳田氏）

○市レクリエーション協会・兼六民謡協会がゲント・ナンシー訪問



市レクリエーション協会は、兼六民謡協会、森本民謡保存会と合同で、10月28日から11月1日まで姉妹都市ナンシー市とゲント市を訪問し、親善公演を行った。喜多美由喜市レクリエーション協会々長（市議会議員）を団長とする一行50人は、10月28日にバスでナンシーに到着。2年前に金沢で公演した地元の Rond・ロレー又民族舞踊団が一行を温かく出迎えた。翌29日の晩、ボワレル劇場で公演し、日本民謡と踊りを披露したが、満員の観客は何度もアンコールを繰り返した。滞在中は一般家庭に民泊し、フランスの生活をほだで知り、互いに友好を深めた。10月30日にナンシーを離れた一行は、その晩、ベルギーのゲントに到着。昨年金沢を訪れたドーレ・ヒーロット民族舞踊団が出迎え、再会を喜び合った。その晩、早速セント・ピーター教会で公演し、ゲント市民を魅了した。市内見学等の温かい歓待を受け11月1日にゲントを離れた。

（写真は、Rond・ロレー又民族舞踊団々長に贈物をする喜多団長）

○石川県早期野球協会がイルクーツ訪問

宮下明北国新聞社副社長を団長とする早期野球訪ソ親善使節団一行59人は7月6日から13日までイルクーツをはじめ、シェリホフ、ブラーツ、ハバロフスクを訪れた。ソ連で日本の野球が披露されるのは初めてのことであり、又、1980年のモスクワ・オリンピックのエキシビジョン競技として、現在ソ連で検討されているだけに選手一同、大張り切りであった。試合は、金沢の2チームが対戦する公開試合形式で、イルクーツ・スポーツ委員長エルモライエフ氏が解説にあたった。8日にイルクーツ市サッカー競技場で行われた試合には体育学校生徒、小学生、一般市民ら約千人が見物したが、エルモライエフ氏の解説に耳を傾け、ヒットやホームランを打った際に大きな拍手と歓声が上がった。一行の訪問は、ソ連国内における野球普及の足がかりをつくる大きな成果を収めた。なお、イルクーツ市からは、野球指導者の派遣交流の意向が伝えられている。

○州立バファロ大学真下教授一行来訪

金沢からの訪問者の通訳として活躍されている州立バファロ大学歯学部真下彰博士と同大学口腔医学部長アラン・ドリナン博士が夫人同伴で8月3日に来訪した。両博士は、岐阜歯科大で開催された第1回日米共同歯学セミナーに講演の途次、本市を訪れたもので真下博士は、2度目の来沢である。本市滞在中、江川市長職務代理者（当時）と親しく懇談し、友好を深めた。又、金沢大学豊田学長を訪問し、同大学で講演を行うなど両大学間の交流をも深めた。兼六園等の市内観光、家庭訪問等を楽しみ8月5日に離沢した。

○日米姉妹都市親善ラリー・バファロ訪問

日本航空、米国商務省が主催し、北国新聞社後援による日米姉妹都市親善ラリーに本市から北国新聞社の池田編集部長を団長とする4人が参加した。このツアーは、ニューヨークを拠点とし、車でバファロ、ピッツバーグ、ワシントン、フィラデルフィア等を9日間で走破する大変ユニークなもので、バファロには8月9日の昼頃到着した。早速、フライヤー姉妹都市委員会新会長らが昼食会で一行を歓迎した。午後は、北国新聞社と姉妹紙提携をしたばかりのバファロ・イブニング・ニュース社を訪問し絆を強めた。

○ベルギー青少年団が来訪

8月18日から27日までベルギー青少年団一行47人（団長・ジョスカ氏）が来訪し、本市民との親善を深めた。一行を受け入れたのは市内の各ロータリークラブで、滞在中、ロータリーの家庭に民泊し日本の習慣等に直接触れ、友好の輪を広げた。一行は、18日に市庁舎を訪問し江川市長職務代理者（当時）となごやかに歓談した。兼六園等の市内観光、歓迎レセプション、又、遠く能登方面へのバス旅行を通して両ロータリー間の友情を深め27日に離沢した。

○「石川青年の翼」一行がナンシー訪問



県内で働く勤労青年・青年指導者によって組織された「石川青年の翼」一行50人（団長・堀川善昭氏）が、11月2日から3日までフランスの姉妹都市ナンシー市を訪問した。欧州各国青年との交流を図り、日本の紹介、各地の視察、見学等を通して国際的視野を広めることが一行の目的で、ナンシー滞在中もナンシー青年会議所を中心とする青年指導者との交流を深めた。又、一行は、ナンシー市庁舎を訪問し、記念品を交換し合い市幹部との楽しい交歓のひとときを過ごした。スタニスラス広場等の市内観光、歓迎レセプション等の温かい歓待を受けた一行は、3日にナンシーを離れた。

（写真は、歓迎レセプションで挨拶する堀川団長）

